

京都市立東総合支援学校

令和4年度 前期学校評価について

令和4年12月1日

前期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました

前期学校評価について、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見や学校運営協議会でいただいたご助言を元に、前期の取組について考察をしました。今年度より、Formsのアンケートでの回答にご協力をいただきました。初めての試みで、回答率が少し減少しましたが、お忙しい中ご回答いただき大変感謝しております。ありがとうございました。後期の学校評価についても、引き続きFormsでアンケートを実施いたしますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

紙面では、結果と分析、学校の取組内容や改善等につきまして記載し、グラフは本校のホームページに掲載します。今回の結果や自由記述でいただいたご意見は全教職員で共有しております。結果を真摯に受け止め、課題改善に向けて取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

<前期学校評価のねらいと方法について>

(1) ねらい

- ◎ 今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、前期の取組に対する達成状況等を明らかにする。
- ◎ 達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取組む。

(2) アンケート実施方法

- ◎ 調査対象 : 保護者、児童生徒、教職員
- ◎ 時期 : 令和4年9月中旬
- ◎ 調査方法 : 各項目について「実現度」を回答
- ◎ 回答者 : 保護者（1家庭に1枚）・児童生徒・教職員

(3) 回答率

	保護者（172）	児童生徒（177）	教職員（134）
回答数	110	54	123
回答率	64.0%	30.5%	91.8%

(4) 本校の学校教育目標とめざす姿

学校教育目標

恵まれた自然環境の中で こころとからだをすこやかに育み
生活の拡がりとつながりをめざして たしかに人とかかわることのできる生きる力をのばす

めざす子ども像

- 生き生きと主体的に活動する子ども
- すこやかでたくましい子ども
- 人と自然を大切にする子ども

めざす職員像

- 人権尊重の重要性を深く認識し、人権意識を高めあう職員
- 専門職としての力量と幅広い知識を持ち指導力向上に向けて自己研鑽に励む職員
- 地域及び社会生活とのつながりの中で子どもを教育活動の充実を図る職員

めざす学校像

- 常に子どもを中心に置き、子どもが意欲的、主体的に活動できる学校
- 地域と地域で育つ子どもの姿を見つめ、地域とともに歩み、街づくりに貢献する学校
- 銳い人権感覚と安心できる信頼関係を基盤に子どもの生きる力を育む学校

<保護者アンケート結果>

肯定的回答は、実現度の「よく出来ている」と「大体できている」の回答を合わせた割合（%）を表示し、学部別に掲載しています。（無記入は回答数には含まれていません。）実現度の高い（90%以上）項目と、低い（60%以下）項目に着色をしました。

		肯定的回答			
<項目>		◎学校経営の重点項目	小学部	中学部	高等部
◎児童生徒一人一人にとって安心安全で、意欲の高まる学習環境づくり					
1	学校では、健康観察が丁寧に行われ、子どもは健康に留意して学校生活を送っている	98.0%	100%	91.7%	
2	学校は、健康維持や体力づくりに関する取組を十分に行なわれている	96.0%	100%	100%	
3	校内や教室は清掃され衛生的である	90.0%	83.3%	97.2%	
4	学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している	96.0%	83.3%	100%	
5	学校は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた取組を行なっている	90.0%	83.3%	91.7%	
◎自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支えあい、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の推進					
6	学校は、子どもが生き生きと主体的に取り組む行事や授業を行なっている	100%	87.5%	100%	
7	教職員は、子どもの人権を尊重した言葉づかいや態度で指導・支援をしている	100%	95.8%	88.9%	
8	子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている	62.0%	79.2%	86.1%	
◎「個別の包括支援プラン」の活用を進め、児童生徒、教職員、保護者が一体となった「生きる力」を育む教育の充実					
9	保護者として、本校の教育目標や方針、内容を理解している	96.0%	83.3%	97.2%	
10	子どもが理解しやすいように授業を行い、教材等を工夫している	96.0%	95.8%	97.2%	
11	本人や保護者の願いが個別の包括支援プランに反映されている	100%	83.3%	100%	
12	保護者と学校は、児童生徒の願いや、めざす姿を共有している	100%	83.3%	94.4%	
13	ICT機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる	78.0%	54.2%	80.5%	
14	教職員は、保護者の思いを受け止め、親身に対応している	100%	75.0%	94.4%	
◎全ての教育活動を通した規範意識の育成					
15	子どもは、学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	72.0%	83.3%	91.7%	
16	子どもは、自分なりの方法でいきさつをしている	90.0%	75.0%	88.9%	
17	子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる	40.0%	70.8%	83.3%	
◎校種間連携と交流及び共同学習の推進					
18	園や小・中（学部）学校との引継が確実に行われ、支援が継続されている	82.0%	75.0%	80.5%	
19	交流及び共同学習では、子どもは楽しんで活動している	76.0%	75.0%	66.7%	
◎小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適正に応じた進路選択と社会参加の実現 ◎保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり					
20	子どもの社会参加の実現に向けた学習や支援が行われている	69.0%	66.7%	91.7%	
21	地域資源を活用した学習を通して、地域で生きる力をつけている	38.0%	41.7%	69.4%	
22	学年や学校により、学校ホームページ等を通して学校の様子を伝えている	100%	87.5%	97.2%	
◎新型コロナウイルス感染症対策について					
23	学校は、感染防止対策を適切に行なっている	92.0%	75.0%	94.4%	

保護者アンケートの結果から

肯定的回答が80%を超える項目は23項目中、小学部では16項目、中学部では13項目、高等部では21項目ありました。肯定的回答が60%以下の項目が小学部で17・21の2項目、中学部で13・21の2項目ありました。高等部はありませんでした。また、「わからない」の回答率が30%を超える項目は、小学部で8・17・21、中学部で13・21の項目でした。これらの項目につきましては改善の取り組みが必要だと考えています。

- ① 「8 子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている」の項目について、肯定的な回答が小学部62.0%、中学部79.2%、高等部86.1%と学部によって、評価に差がありました。また、教職員のアンケート項目である「児童生徒が、学習を通して人とつながり、思いやりを持って人と接する態度を育てる指導や支援を行なっている」においては、肯定的回答が95.1%で、保護者と教職員の評価にも差がありました。学校では、日々の学習で児童生徒への指導や支援に取り組んでいますが、その姿を見て頂いたり、保護者へ具体的に伝えたりすることが十分ではなかったといえます。
- ② 「13 学校は、ICT機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答が小学部78.0%、中学部54.2%、高等部80.5%と学部によって、評価に差がありました。中学部で肯定的な回答が低かった背景には「わからない」が33.3%あったことが考えられます。ICT機器を使った学習については、個に応じた課題を、子どもたちが意欲的に学べるように学習を進めています。個別課題学習時に個々に応じた内容のアプリを活用したり、相手に伝わるように自分の思いを発信するためにICT機器を活用したりと、自分で操作して行う力を育んでいます。これからも子ども達が意欲的に学べるツールとしてICT機器を使った学習を進めていきます。
- ③ 「17 子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる」の項目について、肯定的な回答が小学部40.0%、中学部70.8%、高等部83.3%でした。小・中学部での肯定的回答が低かった背景には、「わからない」の回答が小学部50.0%中学部25.0%あったことが考えられます。いじめに関する学習は、人権学習の一環として取り組んでいます。学んだことを生活の中ですぐにできるようになることは難しいかもしれません、学びを通して、児童生徒一人一人が自分の行動や相手の思いに気付いたり、どうすればいいかを知ったり、行動できたりすることが大切であると考えます。このような学びを積み重ねて、自分も相手も大切にできる思いや行動する力を培っていきたいと考えています。
- ④ 「21 地域資源を活用した学習を通して、地域で生きる力をつけている」の項目では、否定的な回答が高かったのは、コロナ禍の為に地域へ出ることが難しく、このような結果になったと考えられます。後期からは感染対策を徹底しながら、地域資源を活用することができるようになったので、地域の方々と学習する機会を設定し、人のつながりを広げる学習にも取り組んでいきたいと考えています。

児童生徒アンケートの結果から

児童生徒アンケートの実現度の結果は、肯定的回答が80%を超える項目は16項目中、12項目ありました。その他の項目も70%以上の肯定的な回答でした。「また、わからない」という回答が比較的多く、否定的な回答が20%を超える項目はありませんでした。

- ① 「1 規則正しい生活を送っている」の項目では、肯定的な意見が83.3%と高い回答でしたが、否定的な回答も14.8%と少し高い結果となりました。規則正しい生活については、保健室や日々の学習において、その重要性を伝えております。否定的な回答を出した子どもたちも、その重要性は理解しつつ、自分の生活を振り返るとできていないと否定的な回答を出したと思われます。どうすれば規則正しい生活が送れるのか、児童生徒と話し合いながら、家庭と連携を図り、できるところから取り組んでいきたいと思います。
- ② 「3 校内や教室の掃除をしている」の項目では、肯定的回答が74.1%と少し低い結果となりました。本校では、毎日の教室や校内の清掃は教職員が行っております。児童生徒は、クラススタディやワークスタディの時間等で教室や校内の清掃に取り組んでいます。児童生徒は、毎日清掃に取り組むことが少ないので、このような結果になったのではないかと考えます。
- ③ 「14 次の学年や学部、卒業後の生活について、先生と一緒に考え、自分でできることに取り組んでいる」の項目については、前年度の「進路学習をしている」より文言を少し変え、答えやすい設問に変更しました。肯定的な回答が79.6%、否定的な回答が7.4%、わからないが13%となり、昨年度の肯定的な回答75.5%、否定的な回答9.4%、わからない15.1%の割合と比べると、全体的に少しではありますが改善されました。項目については、日々のクラススタディやライフスタディ、ワークスタディ等、学校で行なう教育活動は全て、今の生活や卒業後の生活に関わる学習となります。児童生徒一人一人が学習のめあてを意識し、「何のために学ぶのか」がわかるような授業作りをすることが大切だと考えています。
- ④ 「16 不安になった時やしんどくなった時など、自分の気持ちを周りの人に伝えることができる」の項目では、肯定的回答が79.6%で否定的回答が11.1%でした。教員は児童生徒の少しの変化に気づき、声をかけるなど、児童生徒との信頼関係を高めることが必要だと考えられます。児童生徒が自分の気持ちを伝えることができるような環境作りを心がけ、取り組んでいきたいと思います。

教職員アンケートの結果から

教職員アンケートの実現度の結果は、実現度の高い（90%以上）項目に着色をしました。肯定的回答が80%を超える項目は31項目中30項目あり、学校経営の重点に沿った取組はほぼ達成できているという結果となりました。

- ① 「13 個々の「生きる力」の育成を目指し、児童生徒がICT機器を支援ツールとし意欲的に学べるように取り組んでいる」の項目では、肯定的回答は83.7%で8割以上の教職員はICT機器を支援ツールとして活用し学習に取り組んでいると答えました。否定的な回答が14.6%と割合が少し多いですが、情報教育主任やGIGAスクール推進主任が中心となり校内でICT学習会や研修などを実施し、教職員がICT機器を活用できるように取り組んでいます。児童生徒の個々の目標に応じて、ICT機器を効果的に活用できるように、これからも学習会や研修を実施し、日々の授業に生かしていく取り組んでいきます。
- ② 「19 児童生徒の社会参加の実現に向けた学習や支援を行なっている」の項目では、昨年度学部によって項目の捉え方に違いがありましたので、今年度より「進路指導」という文言からこのように変更しました。昨年度の後期には否定的な回答が14.0%でしたが、今年度は8.1%と減少しました。日々の学習が児童生徒の社会参加の実現に向けた学習や支援となっており、生活に生かせる力を育んでいます。学部によって、課題は違いますが、個々の目標に応じて取り組んでいきたいと考えています。
- ③ 「20 地域資源を活用した学習を通して、互いに理解し合う取組を進めている」の項目では、否定的な回答が20.3%とコロナ禍の為に地域へ出ることが難しく、このような結果になったといえます。後期からは感染対策を徹底しながら、地域資源を活用することができるようになりましたので、取り組んでいきたいと考えています。
- ④ 「27 「働き方改革」を意識して、電話対応や閉門時刻を守り、業務の効率化に向けて取り組んでいる」の項目では、否定的回答は16.3%でした。昨年後期の結果も16.8%で同じような結果となり、効率化が進んでいないという結果となりました。業務の効率化は、教職員一人一人が意識している部分ですが、やるべきだと考えている業務が減らないのでこのような結果になったと考えられます。優先度をつけて効率よく仕事をする工夫をしたり、業務の精選をしたりするなど、実現可能な部分から取り組んでいくことが求められます。

最後に

今回の学校評価アンケートの結果について、学校経営の重点の各項目について概ね達成できていると考えられますが、いくつかの課題も上がってきています。課題につきましては、それぞれ考察の部分で述べていますが、これまでも継続してあがっているものが多くなっています。このことは、これらの課題が簡単には解決・改善しないものであることを示しています。また、人権教育の推進や「生きる力」を育む教育についての項目に対して、「わからない」という回答が多いものもありました。本校の取り組んだこと、取り組んでいること、その成果等について、児童生徒の姿を通して、しっかりと伝えていくことが大切であると考えています。

これらの課題については教職員、保護者間での情報共有を図りながら学校運営協議会とも連携・協力して課題の解決・改善に向けた取組を引き続き進めていきたいと考えています。